

# 一西だより



豊川市立一宮西部小学校通信  
令和7年 1月 28日 第32号  
発行;校長 村上謙一

## 【第3回 チーム担任制がめざすもの】

「担任の先生と学級の子どもの温かな人間関係をもとにした、全人的な教育活動の機会が失われるのではないか。」

チーム担任制導入に向けた最大の障壁はこの疑問にあります。「金八先生」のような学園ドラマは熱い担任と子どもたちの交流が描かれています。教職員もドラマやこれまで出会った恩師に自分を重ねてこの職業についている人もいます。これが失われるのではないかという不安です。結論から言うと、チーム担任制をとっても全人的な教育活動は失われません。むしろ、担任の良い影響を受ける子どもが広がります。なぜならば、チーム担任制は担任がなくなるわけではなく、担任を固定しないだけだからです。

金八先生のようなスーパーティーチャーが子どもの心をゆさぶる素晴らしい教育をする。全ての教員にこの期待が寄せられた結果が、「ブラック」「なり手不足」「早期離職者の増加」「精神疾患等による休職者数が過去最大」という残念な現象を全国で生んでいます。本校も例外ではありません。普通の教師が誇りと夢をもって教育活動に当たり、心身ともに健康で働ける職場環境を整えないと、子どもの未来を輝かせることができません。普通の先生が普通に活躍できる学校づくりが必要です。昨年4月の講演で木村泰子先生は、「大空小が特別だったんじゃない。公立の一つの学校にすぎない。私たちみんなたいしたことない人間でしたよ。間違いばかり。間違いたら、やりなおせばいい。」と語られています。一西小の我々も、普通の人間の集まりです。

これからの優れた教師像は、自分の指導力で子どもを引っ張るのではなく、同僚の力、地域の力、保護者の力を活用して、チーム力で子どもに伴走するものになっていきます。教師が一つの学級の壁の中に限定してその影響力を使うのではなく、少なくとも本校では3つの学級の子どものチーム力で見取るのです。「あの先生に担任してほしかった」そんな思いをもつ子どもがなくなり、あの先生がみんなと関われる可能性をもっているのが、本校が取り組むチーム担任制です。(今回の記事は、若手教員がつづやいた言葉をヒントに作成しました。)

## 【1/14 選挙の学習 6年生】



市役所から4名の方にお越しいただき、6年生が選挙についての学びを深めました。立会演説や投票も体験させていただきました。

## 【冬の体力づくり】

11月から12月にかけて、かけ足運動、マラソン大会で体力向上に努めました。1月はなわとび運動に全校で取り組んでいます。



## 【1/16 学力テスト】



1月16日(木)、全学年で算数と国語の学力テストを行いました。1年間の学習がどれだけ身についているかをたしかめ、苦手を今の学年の内におぎな

うためのテストです。全校一斉の統一テスト形式ですので子どもたちは緊張しました。1年生にとっては人生初なのでなおさらです。わからない問題はあきらめてしまうのか、時間いっぱいまで考えるのか。解答用紙に空白をのこすのか、文字をうめるのか。文字の「うまい」「へた」ではなく、ていねいに心をこめて書けたか。テストへの向き合い方に「学びに向かう力・人間性」が表れます。あなたはどの取り組みましたか。これも大切な学びです。

## 【全国体力・運動能力テスト結果から】

令和6年度の結果が公表されました。全国では中学校でコロナ禍前の水準に戻るなど緩やかながら回復傾向を示した一方で、小学校女子では過去最低を更新しています。本校は目標をもってテストに取り組んだ一方で、その平均値には改善の余地が残りました。人生100年時代を迎え、体力の保持・増進の重要性は高まっています。楽しく運動できる環境づくりと豊かなスポーツライフの基盤づくりに努めてまいります。